

## 「靈的戦いの基礎2」

ローマ14：1～12

遠藤 一則 牧師

先週は靈的戦いの基礎として、主のご命令「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」に注目しました。律法を守ることはよい、社会人として法を守り、税を払うことはよい。しかし、究極は上の命令である、でもこれを行ってくださるのは主であり、隣人は私たち自身なのでした。ということについて学びました、私たちの戦いはの動機は隣人を愛することに、しかも主が愛されていることを知ることにあるのです。この動機なくしてはどんな正義の戦いも最後は罪に汚染されてしまうでしょう。今日は靈的戦いその2として信仰の強さ、弱さについて考えましょう。

昨日、二人の方が「エホバを知ってください」ということで私の家にいらっしゃいました。まじめで誠実そうな方たちだったので少し話を伺いました。最後にパンフレットをくれて「私たちのサイトを見てください。」というので「いいですよ。」ともらっておきました。ついでに「I C B Cのパンフレットをあげましょう。」というので、「結構です。ごみになるだけですから。」と言われます。つまり、私たちは真理を知っている、だから教えてあげよう、教えてもらう必要はない、ということなのですね。そこで、少し意地悪な質問をしてしまいました。彼らは答えに困り、こちらは気分よくなりましたが、実は問題は彼らにではなく、自分にあると思われました。

つまり、私自身が高慢だ、ということです。そして、私自身は弱いのだ、と思われました。うーん、まだ修行がたらんなあ、と思い、少なからずへこみました。もしも主であれば、その方たちをも、もっと愛をもって接せられたはずです。そして、こういう人、すなわちそのときの私を信仰の弱い人といってもよいと思います。そして、主ならば、違った対応をするだろうと痛感させられます。

しかも私の今のテーマは「人をいかに否定せずに伝道するか」なんですね。白か黒かの理論ではなく、相手の心にいかに聖書のメッセージを届けるか、だったのです。しかし、相手への対抗心で、相手を受け入れられず、さばいてしまったのでした。信仰の弱い人となってしまうのです。信仰の強い人、という言い方は聖書にでてきません。主がその信仰を認めた人はいます。けれども果たして信仰の強い人はいるのでしょうか。

今ここにおられる皆さんはどうでしょうか。信仰が強いですか。それとも弱いですか。聖書は「あなたの信仰は強い。」と言っていると思います。なぜか。このローマ書で信仰の弱い人を受け入れなさい、と主があなたに命令しているからです。つまり、主はあなたの信仰を強いと認めてくださっているのです。靈的戦いの基礎として、「私たちは強い」、すなわち「主にあって強い」と

いうことを認めることをお勧めします。弱いと思いながら、不安げに戦う必要は全くありません。12節にあるように主の前に申し開きをしなければならない時が来ます。しかし、恐れることはありません。弁護士としてのイエスがともにいるからです。主が弁護士であるならばどんな裁判も負ける道理がありません。「主イエスがいれば、私は最強!!」なのです。